

## 「地域の教育力」

さわやかな風に吹かれて新緑が輝く季節になりました。

5月6日、園庭でアサガオの種蒔きをしていると、自転車で通りかかった健全育成推進会の会長の二文字屋さんが笑顔で声をかけてくださいました。

「リンゴ狩りの農家、決まったから」。

清水小学校の少し西にある久盛院というお寺の前に広がるリンゴ畑の阿部久夫さんに、幼稚園のリンゴ狩りをお願いして下さったのです。毎年、山岸幸一さん、由美子さんの畑でぶどう狩りをさせていただいていたのですが、そのぶどう畑のところに清水市所ができるそうで、今年はぶどう狩りができなくなってしまったのです。そこで、幼稚園の子どもたちが果物狩りに行けるような果樹園はないか、以前から二文字屋さんに相談していたのです。

そのことを二文字屋さんもずっと気にしてくださっていて、春になり、リンゴ畑で作業をされている阿部さんを見かけ、リンゴ狩りのお願いをして下さったのです。すると阿部さんは、すぐに「いいですよ。」と言ってくださったそうです。なんと阿部さんは清水幼稚園ができて最初の卒園児なのだそうです。清水幼稚園の第1期生ということです。そういうこともありその場で、清水幼稚園の今年のリンゴ狩りが決まりました。本当にありがたいことです。

さらに二文字屋さんは「これから阿部さんのところに、挨拶に行こう。一緒に行くから。」と言って、すぐに阿部さんの畑まで連れて行ってくださいました。二文字屋さんの後を自転車でついていきながら、「こういうことがあるんだな・・・。」と心から嬉しくなりました。阿部さんは畑で作業をされていて、「いつでも自由に畑に入って構わないから、好きに見て。」と優しく言ってくださいました。阿部さんのリンゴ畑には、フジや王林など約100本ものリンゴの木があり、これまでに全国の賞や県知事賞などを何度も受賞されているそうです。



コロナ禍の中、子どもたちの実体験の機会はますます少なくなっています。この畑で子どもたちが、リンゴが実る様子を見たり、真夏にリンゴの木の下の木漏れ日や涼しい風を感じ、虫とりをしたり出来たら、こんな素晴らしいことはありません。子どもたちの笑顔を想像すると、うれしくなってきます。

幼稚園にいらっしゃったお客様が、「清水幼稚園の子供たちは、優しい子どもたちですね。」と言ってくださることがありますが、それは地域の皆様に大切にされているからなのだろうと思います。誰かに大切にされた経験が、ほかの人を大事にすることにつながります。優しくされることで人は優しくなるのだらうと思います。

このような地域の皆さんの協力やかかわりのことを「地域の教育力」というのだらうと私は思います。